

俳諧十象歌集

秋

中村俊定文庫

文庫 18

711

3

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4



俳諧十家歌題集秋之部

○目録

七月	立秋	今秋	来秋	初秋	初嵐
柳菖	一葉	桐一葉	杉待	星月夜	文月
芥月六日	七夕	牽牛	星別	星伎	星忌
立琴	星迎	星合	二星	星友	秋七草
天河	鶴	秋の糸	梳の糸	防鴨渡	七夕鞠
迎鏡	盆市	盆會	魂迎	魂糸	魂柳
相經	墓糸	生糸魂	刺鯖	鯖切	大文字
送り火	高燒籠	焼籠	ほと入	踊	角力



月見	一ヶ月	秋夕	菜虫	稲木	蓮実	桔枝	瓢	夕入	露
十六夜	待宵	秋の夜	蟬	萩磨	藕節	相撲叶	青瓢	木槿	霧
有明	月	八月	蝻	秋米	稲の花	唐草	萩	花本槿	雨
駒迎	月	八月	蝻吹	冷虫	稲葉	唐草	萩	草花	冷
葡萄	名月	初月	花火	簑虫	早稲	唐草	芭蕉	女郎花	指
芙蓉	今日月	秋月	秋意	秋意	玉叩	西爪	朝鳥	朝鳥	秋風

秋目ノ一

明子	毛見	秋子	江魁	山雀	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
業山子	稲刈	秋水	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
引板	稲刈	初月	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
為	為	暮風	い	い	い	い	い	い	い
麻	唐黍	秋山	い	い	い	い	い	い	い
九月	九月	門田	沙	沙	沙	沙	沙	沙	沙

文月

七夕

章半

又月やと首の帯のおつらひ
 ちりぬはらひの極楽や一巻の上
 ちりやねをさうさうさうさうさう
 紅むのふれさふ神も厭へるう
 柳機へし移しひやの春をさむむ
 さささうさやうさうさうさうさう
 くらりやと半まはるのいそげう
 さささうさやうさうさうさうさう
 ちりさうはらひさうはらひさう
 さささうさやうさうさうさうさう

芭蕉

泊徳

来山

其角

嵐雪

秋二

早使
 早使
 立琴
 早使
 早合

肌をささけけしめんやうさうさう
 ちりふ修しそ線やしねぬ人
 滝水のささけけしめんやうさう
 穂ふさささうさうさうさうさう
 さささうさやうさうさうさうさう
 毎のさうはらひさうさうさうさう
 丸機乃しはらひさうさうさうさう
 ちりさうはらひさうさうさうさう
 さささうさやうさうさうさうさう
 さささうさやうさうさうさうさう

麦林

嵐雪

希因

其角

来山

其角

鬼子山 母屋のま戸のちち何
 嵐雪
 待ハ来る隙ををられむまつり
 希因
 申ひおの他人をいふや鬼子
 麦林
 外のみ入ぬももすてまつり
 来山
 ちちのちちのちちのちちのちち
 蕪村
 ちちのちちのちちのちちのちち
 嵐雪
 鬼子山 母屋のま戸のちち何
 嵐雪

霊木の葉よきそこのちちのちち
 来山
 付けや神を総柳 蕪村
 蕪村
 柳行や比曉のちちのちち
 其角
 墓系 墓のちちのちちのちち
 芭蕉
 白くは成家の柳や 其角
 其角
 生身魂 生身魂のちちのちちのちち
 其角
 例明り隣りのちちのちちのちち
 其角

踊子成るくしらくしりくま山
 其角
 ちまぬ寝をおうくくおひくま
 おしりきりあひのち希に酒さきり
 小娘のけいさねきりくくおひり
 ちまぬ寝をおうくくおひり
 信松の鬼えきひきりくおひり
 又まきりくくおひりくくおひり
 まきりくくおひりくくおひり
 まきりくくおひりくくおひり
 まきりくくおひりくくおひり
 まきりくくおひりくくおひり

其角
 米山
 麦林
 来山
 蕪村
 七

角力

藤の後り合せをねくくく那
 昔サウキ後又後く角力くく
 ほおのきりく土山帯を角力取
 上よるきりくも優るくお撲
 トスやきりくもぬきりく過角力
 ちまぬ寝をおうくくおひり
 お撲まきを整月代の夕くく那
 まきりくくおひりくくおひり
 まきりくくおひりくくおひり

芭蕉
 沾徳
 其角
 嵐雪
 来山

露

負すしれ角カと森物こころ舟
夕を露中休えの角カちちり
花入の力志に中しと角カこり
目の中しとて能りるこころし
とこしちしとこしとこしと
ふふふのまゝとこしとこしと
露のこころとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
赤院のこころとこしとこしと

燕村

言水

素堂

其角

秋八

手務

こころのこころとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと
舟とこしとこしとこしと

嵐雪

来山

其角

燕村

来山

霧雨

鈴音やささも石の香むきささ
 言水
 鈴音よぢのえきやうれき
 素堂
 ともくぬのいんちりさうき
 其角
 鈴音よ一のちんたや流り音
 其角
 鈴音ゆ煙りあつて流るり音
 其角
 鈴音やうきをきくおるし
 其角
 音音や音のさくはる海ほ
 其角
 朝よりや松打音丁くさり
 其角
 朝音や村千朝の市のあき
 其角
 音よよ衣通娘のき魚アムン
 素堂

雨冷 稲妻

雨冷よぬ獄やぬの義たうん
 其角
 いさつや写のむけい位り音
 芭蕉
 けの音さいふまをわたり舟
 其角
 稲ほきも目付はる田面り那
 沾徳
 いさつや朝暇くさるやふ入
 其角
 稲妻やさのうきふりつらほし
 其角
 いさつやふりふりもゆるるを
 其角
 稲つらやいんちんせえぬてり
 希因
 いさつやの稲よりさう牧の弱
 其角
 稲妻うらうらうさや井のあ
 其角
 蕉村

僧ふと結りかつて女希ふ
 後深きもけり入中なるまじし
 牛ふまゝの路らなむと女希ふ
 雨風の申よまきさうりおひまぢし
 旅のまぢ折るまぢてふまぢまぢし
 女希ふふともまきさうりおひまぢし
 まぢれともまぢくまぢまぢまぢまぢ
 朝の月やまぢく後ふるまぢ門の垣
 まぢ年のまぢまぢまぢまぢまぢまぢ
 まぢ朝もまぢ年の威りまぢまぢまぢ

其角
 来山
 蕪村
 希因
 芭蕉
 素堂

朝鳥

朝の月やまぢまぢまぢまぢまぢまぢ
 其角
 沾徳
 其角
 希因

青瓢

瓢

つらふふさるま〜ノ中世の
湖の舟のまゝに口をこぼるる
船中竹のあちの日はまゝ
毎日の花朝のころぬ〜
つらふふさるま〜
船中竹の一輪はまゝの
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜

其角
嵐雪
麦林
来山
蕪村
希因
其角

萩

萩

芭蕉

山萩の流井もさ〜
蒼々もさ〜
萩の舟もさ〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜
つらふふさるま〜

言水
其角
希因
嵐雪
来山
蕪村
芭蕉
来山
其角

蓮實	蓮のこぼれをさかすむ	其角
藕節	蓮の骨節をさかすむ	嵐雪
稻花	稻のこぼれをさかすむ	言水
稻葉	稻のこぼれをさかすむ	其角
早稻	早稲のこぼれをさかすむ	来山

稻木	稻木のこぼれをさかすむ	言水
新米	新米のこぼれをさかすむ	嵐雪
蜻蛉	蜻蛉のこぼれをさかすむ	其角
とん不	とん不のこぼれをさかすむ	其角
玉虫	玉虫のこぼれをさかすむ	言水
虫賣	虫賣のこぼれをさかすむ	言水
虫	虫のこぼれをさかすむ	其角

風のれと鯨界よわらふよらふらん
 常規や破らけくわよらうらうら
 赤やうらや味留まらうらや茶
 清月や舞をよらうらうらうら
 身をさぬわらうらうらうらうら
 法外うらまきうらうらうらうら
 扇酌花火うらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうら
 小屋うらうらうらうらうらうら
 物うらうらうらうらうらうらうら

嵐雪
 其角
 来山
 言水
 其鹿

秋意
 秋夕
 秋夜

火のせよ波のふらやの夕月夜
 をれ悔て花うらうらうらうら
 輝をうらうらうらうらうらうら
 赤野うらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうら
 身のうらうらうらうらうらうら
 子鹿のうらうらうらうらうら
 甲斐鹿のうらうらうらうらうら
 松上うらうらうらうらうらうら

蕪村
 嵐雪
 芭蕉
 来山
 蕪村

○八月

八朔

ハ朔や踊しををかしこやう

麦林

初月

ハ朔やぬゆりきこ日月

蕪村

初月

初月の号は経き雁のしき

言水

新月

そよやゆきしらけさの初月お

素堂

新月

新月やいつをむくの雪山

其角

新月

新月のふきさうを煙角

嵐雪

三ヶ月

新月や肉付ふの株の竹

芭蕉

秋十八

三日月や朝風の夕人はむしん

三日月のつらきをたのむる

三日月の株三日月のしきをぬく

中秋の雲いもききよと月の

情けやしきしき月をさるる月の

海しきの門は入るるさ日の月

待宵やゆききこくはるるれ

中川の音やききしきさるるの音

一心集まきも舞きし月の

二階のしきやききしき由き難きの月

素堂

言水

其角

其角

麦林

其角

麦林

言水

沾徳

月の名は片枝さしなり 街 牙 佑徳
 江を流して海へ 茶も月の清き水
 此のいさ月より おてや帰るらん
 ささぬらる青の 小貝の破の月
 家くに月の中 音るる 音
 葉奈川と又なる月や 去の橋
 中川の月枝より ささるる月
 佳くもさし 向ふらん月の音
 是る歌や さし行へ けも青月あ
 妹も早さし けく帰る 月の歌

秋子丸

芭蕉
 来山
 嵐雪
 素堂

我若くは四角なる 歌を 意の 月
 ささし 枝より 明く 月の上 古里
 月を中 梢さるる 枝を 持るる
 鳴りしれども 風は 破生ぬ 月あま
 即ち 藤さるる 牛の 音と 歌の 月
 家舞て 我より 名せらるる 月あま
 月九から 流れ 井の 音と 歌の 月
 洪く ささし 枝より 明く 月
 ささるる 本なる 音と 歌の 月
 ささるる 本なる 音と 歌の 月

来山
 嵐雪
 素堂

神よほそよよをばか衣月哉ッ 素堂

月つり柝らり秋ふ木のちりり
我をほほめて我影つる月お邦

猿人よまきぬくくぬくの月 蕪村

月えんまきくさ所をささりり
中くふ秋りらまきそ月を友

山のそや海をささりり月も今

行月や澄行りまきく月を信 沾徳

くさ居くさ居くぬくの月
海を清く乾く月月のをうく山

水原よ月よよ入るよよ後世はし

後程く桐のそよこくく月

月の後く詩の毎の山常の川哉 其角

吾家まきく太年行りまき月も入ん

危丁の片袖くびし月の ちりり

月よさりぬけくまきくく月を

まきくまきく時家記て月のちり

ちり月まきく後まきくく月

ふまきくくまきくく月

月まきくく月を信く小まきく邦

言のぬりたる思をうり月あるは 其角
 池より七ふよるを白りつこ
 小舟よ起るを月をえさうとを
 こころのち大船を清らんぬの月
 猿鳴り我ららんぬの月
 りぬらふまかりの鹿もふらの月
 入月や西を色を休らんぬの月
 とく後へ火の甘をわ月あるは
 夢うもて猿の歯かし世の月
 月を流る旅路の小者木角の下女

新世一

月令書

名月

月と森人きふふ小神のゆりしん	来山
位のはやおまを居て浦の月	其角
庭の月を成せしる茅渚り	蕪村
月を流る方さうりして流る那	希因
廣はや春も庭よはるのこ	言水
月を流るの庭を年一おこよ	蕪村
月を流るの庭を年一おこよ	来山
庭の月を流るの庭を年一おこよ	芭蕉

名月やさう〜ふほろ鶯の声
 名月や石の名のかりうら
 名月や柳の枝をさす〜鳴く
 名月やうら〜言ひ〜まのうら
 名月の情もふら〜ぬ指〜う都
 名月や〜先き西〜りて暮ま〜る
 名月や〜秋人〜の聲の〜なほと
 名月を〜統る〜流の〜ひ〜うら
 名月や〜風〜と〜え〜て〜ま〜る
 名月や〜おき人〜は〜ぬ〜冬〜の〜茶
 蕪村
 希因

秋廿三

名月や人〜さ〜て秋の月
 名月や〜草〜も〜え〜と大根留
 名月や〜再の山風目の〜ま〜う
 名月や〜押合〜ふ〜新〜と六秋仙
 名月や〜ま〜て〜虎渡の〜名〜ひ〜ま
 名月や〜今〜奥〜沼魚〜〜し〜ら〜折
 名月や〜弁泉流の〜魚〜踏〜み
 名月や〜石〜流〜海〜る〜池の〜うら
 名月〜うら〜えの〜こ〜ろ〜折〜る〜下〜折
 名月〜うら〜ぼの〜壺も〜うら〜の月
 嵐雪
 東山
 蕪村
 希因

今月

懐吟のまゝにたぐやぐの月
まのやうに紙をふくむ中にくの月
まゝくして鞠をいしきくの月
まのやうに紙をふくむ中にくの月
おのゝくくくを掛の太希月
月をまよふまのやうにたぐの月
信流のまゝにたぐの月
まゝに紙をふくむ中にくの月
頼のまゝにたぐの月
鳥帽子屋のまゝにたぐの月

希因

沾徳

言水

其角

秋
廿四

本母寺よりうの倉をさす月
汐汲をさす月
不こり入白をさす月
弱とあてをさす月
酒をさす月
川筋の崩をさす月
納屋の行をさす月
十ふく海をさす月
いとぬき月
土鼻をさす月

嵐雪

ころり魚ん丸きりきりて月んんん
 おりりきりきりて月んんん
 人きり月んんんんんんんんんん
 娘んん丸本んんんんんんんんんん
 雷んんんんんんんんんんんんんん
 津河ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 鱈を画してなまぬんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 終んんんんんんんんんんんんんん
 月んとる海んんんんんんんんんん

其角

嵐也

来山

四共六

十六夜

簾の鼻をちりぬる月んん
 けり月やぬんんんんんんんんん
 世人の月やぬんんんんんんんんん
 月んんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん
 ちんんんんんんんんんんんんんん

蕪村

芭蕉

其角

<p> 知しやらさよひさきこころ 十たきやあそびしんご思 いさよひやわらわのらけい 有明や二斗とみ推の持より けりゆ中待あまのるを笑 五月の月さきさき母の乳 眺えやる函谷中しりしり 駒逢さふゆきや嵐 白 駒いへやさきさきえ箱根 甲斐駒やしらんくさ木 </p>	<p> 来山 麦林 沾徳 其角 蕪村 其角 </p>
--	---

秋廿七

<p> 看菊 月日の粟嵐ふらうかつこの年 芙蓉 さきさきさきさきさき 茶冬もてさきの掃除中し 木犀 さきさきの酔さきさき 本犀やしらん四人さきさき 花野 体さきさきさきさき さきさきさきさきさき さきさきさきさきさき さきの輝中しさきさき さきさきさきさきさき </p>	<p> 沾徳 其角 嵐雪 其角 希因 嵐雪 来山 </p>
--	---

藍

藍の葉のふしとむすや藍の葉

嵐雪

葛の葉

葛の葉のふしとむすや藍の葉

其角

葛の葉のふしとむすや藍の葉

嵐雪

葛の葉のふしとむすや藍の葉

燕村

葛の葉のふしとむすや藍の葉

沾徳

葛の葉のふしとむすや藍の葉

素堂

葛の葉のふしとむすや藍の葉

燕村

葛の葉のふしとむすや藍の葉

其角

葛の葉のふしとむすや藍の葉

芭蕉

葛の葉のふしとむすや藍の葉

麦林

廿九

秋海棠

秋海棠のふしとむすや藍の葉

麦林

鶏頭

鶏頭のふしとむすや藍の葉

其角

鶏頭のふしとむすや藍の葉

嵐雪

鶏頭のふしとむすや藍の葉

燕村

鶏頭のふしとむすや藍の葉

嵐雪

鶏頭のふしとむすや藍の葉

言水

鶏頭のふしとむすや藍の葉

其角

鶏頭のふしとむすや藍の葉

燕村

鶏頭のふしとむすや藍の葉

燕村

鶏頭のふしとむすや藍の葉

燕村

葉鶏頭

金剛草

蓼花

穂 蓼

甲斐のやふふのよか陸軍

蕪村

芋

芋の〜凡僧都の二百貫

其角

いさよ極ていさをやう風のやういさ

葉人参

朝鮮のまあや〜引らんまふ人参

種茄子

さ〜のまふい北平〜を移らんまふ

むらふ

嶽〜さのまふよ余り〜をむらふ

蕪村

綿取

生糸〜をむらふ〜をむらふ

其角

烟草

さ〜の干を山田の畔の夕日か

らる目〜の〜を〜を〜を〜を

喜〜の〜を〜を〜を〜を

蕪村

秋三十

烟草花

煙は〜を〜を〜を〜を

鬼灯

鬼灯や〜を〜を〜を〜を

砧

猿の〜を〜を〜を〜を

さ〜の〜を〜を〜を〜を

二巻〜の〜を〜を〜を〜を

砧の〜を〜を〜を〜を

女〜の〜を〜を〜を〜を

ま〜の〜を〜を〜を〜を

う〜の〜を〜を〜を〜を

ね〜の〜を〜を〜を〜を

其角

芭蕉

其角

其角

其角

希因

蕪村

蕪村

希因

鶴 鐘

忍川も連ふもほほし丁の寺
陣中の飛掃もさうや丁の寺
ほほまはれりもおの原いさ
大経を賜とえ終るもあま
丁の後入送るもやあの上
鳥帽もさうて白のさうて
坂やいさくもさうてさうの寺
紀の路もも下もさうておの原いさ
一軒の丁や鶴の山も月をさう

其角
嵐雪
麦林
蕪村
芭蕉

秋四十

稻負鳥

若狭のよさういさあせきとさう

其角

鶉

小石の終をえおとさういさ

蕪村

か鳥

かきさうたを授さうさういさ

其角

燕 帰

愛も清寺の教さうさう

蕪村

後

後りさうてせせん寺 林

蕪村

小鳥

こさうさうさういさ

其角

四十雀

四十いさ小女の中いさ

芭蕉

山雀

山のさういさいさ四十雀

其角

山雀

山いさいさいさいさ物

其角

鷓鴣

山雀や 樞のまよふふらふら
竹葉もささくささくし 鷓鴣を

燕村

鷓

尾のまよふふらふら 鷓のまよふ

嵐雪

さひ鮎

まよふまよふささくささく 山里を

河鹿

毎大の河鹿や 波の下むせし

芭蕉

初鮎

かゝる鮎夕熱人ま 猿のまよふ

其角

江鮎

鮎の付るまよふ 鮎のまよふ

素堂

江鮎

鮎の付るまよふ 鮎のまよふ

燕村

鱸

鮎の付るまよふ 鮎のまよふ

其角

石目の鮎切きて 鮎のまよふ

燕村

秋四十一

鮎

赤權り 鮎のまよふ 鮎のまよふ

其角

いま

鮎の付るまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

小鮎や 一口ある 鮎の 門

其角

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

い

まよふまよふ 鮎のまよふ

燕村

幕風
野分

八九月風やうこのあきの見
穂層よありあやしく如きかこれ
目投きくひんくくくかこれ
暁の空を翳ふこの暴風これ
夕に霞もたふるほとけきか
けし来るこころふねしこめしや
ちりねとのくみさびしきか
門のけを築つる新倉の那にか
林下より我々のまをみか
市人のくさるる問のくみか

嵐雪

芭蕉

言水

麦林

来山

蕪村

秋四十二

秋山
門田
毛見
稲刈
稲刈
落穂
唐黍
蕎麦花

宮原の二階下へ来る柳のま
はるる山や約もゆるぬ鶴の上
稲一穂門田より涼む月あこれ
毛見の嵐のまき下せを上川
いほくくく稲を千の原や大井川
稲くくく穀を握るまきのか
庭の卵を拾うはるる穂を
あら穂拾ひ目くららあつあつ
唐黍やし水をしおのとりまえ
うきまきしるるまきくれやを富

其角

沾徳

蕪村

其角

蕪村

芭蕉

其角

柳うゝやまゑをたはらふはのゑ
 宮城野の菰文科のそはふらたれ
 道のしやうふらうこほむてそはのゑ
 五谷の隣を白くさるまのそはれ
 坂の中はらうこほむてそはのゑ
 麓の口のくさくさしてはるそはのゑ
 なるこりおのうらまをそはのゑ
 けしうらまをそはのゑ
 七叶の梅をそはのゑ
 鳴るそはのゑ

素堂
 蕪村
 麦林
 其角
 言水

鳴子

秋四十三

麻のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ
 新令のそ中かしの形も無れそ

麦林
 来山
 蕪村
 希因
 蕪村

案山子

引板

庵水

村〜れ後らふぬ〜

蕪村

麻

ふたの心所〜
山京女や〜
いさの袂〜
秋〜
雪の心〜
さほ〜
ふ〜
麻の音〜
ま〜

其角

麦村

秋田

身〜しよ〜

希因

松〜

二人〜

蕪村

麻〜

折〜

麻〜

ふの麻〜

と〜

葉留のちねねら半し麻のち
麻のちねねら半し麻のち

蕪村

○九月

重陽

はな入の節のちねねら半し麻のち
葉留のちねねら半し麻のち
麻のちねねら半し麻のち
きつとまきいさつはむ九日
湯てしと神のちねねら半し麻のち
葉のちねねら半し麻のち
まのちねねら半し麻のち

麦林
具角

嵐雪

来山

秋里

十日兼

親世辰十日の節をいひてり

具角

残葉

はな入の節のちねねら半し麻のち

来山

半祭

角のちねねら半し麻のち

蕪村

井市

木更のちねねら半し麻のち

芭蕉

後月

温のちねねら半し麻のち

沾徳

言水

まのちねねら半し麻のち

其角

この後よりのけりの袋さく
志ほじしそるをいぢるまのち
をさるりし流し山路のまゝ
その内れ敷くまこさくの
いそぬまのなを おぼ ぼるのま
袖のいろや おぼ ぼるまのま
すくのまふ人のまま おぼ ぼる
菊のまのまよつまのま おぼ ぼる
まのまのま おぼ ぼるのま
影の下ま おぼ ぼるのま

其角

其角

其角

さく切流ま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま
ま おぼ ぼるのま おぼ ぼるのま

嵐雪

秋さくやちりしはの秋の白たもと
 折よ入うせふとそしきうのた久
 手おのさく杖うまきれき節うも
 軒うそふのれとさぬさくの直
 さくさくさくり膝まきて花人陰具人四
 ちをせむさ芭蕉よはつとさ葉のりえ
 さあさうつり又とさよさうり一人や花
 葉うさくさくさあひうまはくさあうま
 さあさあふさくさくさあひうまはくさあうま
 かくさあやしあ葉の中はさうさあ

嵐雪

秋四十九

秋のさく葉七人のちうせん、那
 つくはくさくさあひうまはくさあうま
 陰はくのさくさあひうまはくさあうま
 係はくさくさあひうまはくさあうま
 さあさあひうまはくさあひうまはくさあうま
 さくさあひうまはくさあひうまはくさあうま
 さくさあひうまはくさあひうまはくさあうま
 村百さあひうまはくさあひうまはくさあうま
 つくはくさくさあひうまはくさあひうまはくさあうま
 さあさあひうまはくさあひうまはくさあうま

来山
燕村

小葉

とせぬも枝ささくの後あま

末山

兼作

日影く伏見のささくゆいさう
とくゆりゆささくのぬこ那

燕村

兼畑

那さうんのささく梅の空さふ兼畑にり
ゆきく花枝のささくさふ兼畑にり

燕村

兼和兼

子ねささくの隣り歌く朝出さ
火焚くもゆささふり河の畑

沾徳

紅葉焚

洞ありのささくささくささくささく
兼畑のささくささくささくささく

麦林

紅葉

月のめえぬささくささくささく
兼畑のささくささくささくささく

言水

其角

秋平

むらね在のささくささくささく

山根のささくささくささくささく

ささくささく朝露の枝ささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

ささくささくささくささくささく

嵐雪

希因

蘿錦	葛紅葉	葛	梅紅葉	嵐雪
おまゝの合巻は秋のこゝろ	かやと雪の隣、らやまのきりぎりす	大吼てまゝの人かゝり	嫁入のささくもささく	蕪村
			うりれもこゝろの情中、梅紅葉	希因
			まのほろろの世中、こゝろてまゝ	嵐雪
				其角
				言水
				芭蕉
				其角

秋五十一

銀杏	菜蔓	柿	嵐雪
鈴子の寺よりこゝろ	みづゝ代の供奉の庵や雪浪香	おまゝの合巻は秋のこゝろ	其角
			嵐雪
			其角
			素堂
			来山
			其角
			嵐雪
			言水

栗	推	梨子	柚	榧	ほし柿	木	小練柿
いこころうまゆきをばねのむらひうま	同来いー 推つる里の本をまきより	くちりうまきりーれ帯くー男が屋	子菟の柚のをまきよりし白ひが	榧の売しー舟の山の木の葉はよ	随長の目よ隣をほふー柿	後よふ新機くはくも木法 桶	本孫柿 暖縁を浮世を知らぬこ
	其角	其角	其角	嵐雪	沾徳	其角	来山

暮	南	南	越
おるはよまねさころの夕うね	うん天やしほをこころゆる小く山	なんてむやぶのこころふとの山おく	山川や指よつらまらりまうし
	其角	其角	素堂

栗をまきのまきいー海宗居の那
 園守のんあうまき栗こころい
 栗体ふるまの能乃 弥陀佛
 を年とあり栗のこころおぬい
 山川や指よつらまらりまうし
 南此やーそのまうとらうて言はし
 なんてむやぶのこころふとの山おく
 うん天やしほをこころゆる小く山
 南天のまきをほくえとやアの序
 おるはよまねさころの夕うね

菌
松露

行く行くして朝の土やよりの玉指
神の香もし記のふけもいしらの家
夜冬い休くもおきぬをたつれぬ

其角
素堂
燕村

新豆腐
新酒

茶のまろし飲ゆしむむ新豆腐
足りしやまもまもやうを新酒

其角

秋寒

鬼骨や新酒の中れおるよふ
りききやうしそよふう満ちく時

嵐雪
燕村

露時雨

秋寒よふ山もさうしやうか時雨
いもいもふてせしきもたつ時

山嵐雪

秋五十四

夜寒

ふくきききききききききききき
振るとおきむ防りえう那

其角
燕村

長衣

起てたててききききききききき
ほくまききききききききききき

来山
沾徳

あおし四つ年しほりしきききき
なうたおおし通あおの連ふたは月
山きの枝しききききききききき

来山
燕村

秋暮

芭蕉

かき散り鳥のとまらうらうの言
うらうら向け我も淋しき妹のくれ
此道や行人さういふさこのくれ
梓や弁ふるま惚きり秋の言
青海やし海まよふうら秋のくれ
あふ山のふこよまふやらこの言
らこのくれ後文のうらうらこておま
こはくの持りあひや秋の言
是約の度こまふや秋のくれ
ふを思ひて指の様や秋のくれ

言水
其角

希因

秋平五

ささらきやうしろさや秋のくれ
ゆきうら丸我面くらん杖の言
森てむて又移てこま秋のくれ
らこの言ら山寺のうらこの言
をれいらぬ人持まきり秋の言
九年母の尻も腐し秋のくれ
好のくれ杖柱の端もぬけてけ
淋しき又杖もぬけてけ
うらうらさうら秋の言
門をあらる我も行人妹のくれ

嵐雪

麦林

蕪村

暮秋

けしき 向きの時をさう秋のき
 父母のこころのききり秋のくれ
 去年よりいふ入海いそ秋のき
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ

其角

芭蕉

行秋

九月盡
 けしき 向きの時をさう秋のき
 父母のこころのききり秋のくれ
 去年よりいふ入海いそ秋のき
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ
 けしきのききりけしきりいそ秋の
 妹のけしきもいそ秋のくれ

其角

芭蕉

其角

芭蕉

辛卯子らるれ明日くく九十日 来山

俳諧十家類題集秋之部終

秋五十七

